

日本音楽教育メディア学会
(JAPANESE MEDIA SOCIETY FOR MUSICAL EDUCATION)

JMSME News Letter

2023.7 vol.17

発行：令和5年7月15日

日本音楽教育メディア学会事務局

〒125-0062 葛飾区青戸 5-5-16

メールアドレス info@jmsme.org

ホームページ

<https://jmsme.org/>

ご挨拶

会長 田中功一

熱中症や豪雨被害の報告が多く聞かれますが、皆様無事にお過ごしでしょうか。実は自分は7月2日に軽い熱中症になり、自宅で二回倒れて額を軽く切りました。3日間で元気になりました。皆様もご用心ください。

この度、「音楽教育メディア研究 Vol.9」の発刊がたいへん遅くなりました。会長として、また論集発行人として申し訳なく、皆様にお詫び申し上げます。3月末発刊予定が7月に至り、3ヶ月以上遅れた結果、業績報告に間に合わなかったケースもありました。今後このような遅延が起こらないようにいたします。論文の公開について、本学会ではJ-STAGE 公開論文の早期公開を実施しており、これに倣ってJ-STAGE 公開論文以外の論文についても受理後に即公開することが可能かどうか、理事会に諮りたいと思います。可能な場合、論集の発刊前に受理後の論文が公開されることになるため、受理後の論文の修正はできなくなり、論集発刊前の文字校正など内容の修正も不可能になります。個人的には論集発刊による一斉公開よりも、論文の個別の公開を優先したいと考えます。その結果として3月末の論集発刊の遅延が避けられると思います。

さて、ChatGPT に代表される生成系 AI が話題となっています。Microsoft 社が提供する検索エンジンに搭載された人工知能 Bing AI があり、私も試してみて、嘘か本当かは検証できないものの、その反応の凄さに驚きました。国立情報学研究所が開催している「教育機関 DX シンポ」でも生成系 AI、ChatGPT のテーマが多いようで、テンポの速さに目が離せません。文科省も7月4日「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」を公開しました。本学会は教職養成に関わる先生方が多いので、可能でしたら意見交換の場を作って各校の生成系 AI への対応を共有したいと思います。学会は論文と関わるため、論集次号に向けたとりあえずの対応が必要になります。その後、議論を経て学会の方針を示したいと思います。

今年2月の研究会では、米田直之氏による「カエル大先生の音楽&Scratch 寺子屋 特別編 ～オンラインでキッズ達と楽しく遊んでみた～」(招待講演)がたいへん好評でした。8月もその実践編として「Scratch を使ったプログラミングのワークショップ」(仮題)を予定しています。皆様、お気軽に参加していただきたいと思います。

本学会の J-STAGE 公開論文のその後のアクセス状況をお知らせします。アクセス状況は毎月学会事務局に通知されます。今年4月のアクセス状況は、全体で書誌事項が141件、全文 PDF が133件、5月のアクセス状況は、全体で書誌事項が153件、全文 PDF が183件でした。また、先生方の論文の引用もカウントされ続けています。J-STAGE は論文の発信力としてパワフルですが、論文の質が学会の評価に直結します。J-STAGE 公開論文は外部査読となります。

先生方には、ホームページの発信、または J-STAGE 公開をご活用いただきたいと思います。また、このような発信に興味を持っていただける先生方がいらっしゃいましたら是非お誘い下さい。



日本音楽教育メディア学会 第10回総会、第17回研究会のご案内

日時：2023年8月18日（金）

11：00～12：00 総会

13：00～14：40 研修会

15：00～16：30 口頭発表・レクチャー

場所：葛飾シンフォニーヒルズ 別館 2階 ビジュアルルーム

会場とオンライン（Zoom）でのハイブリッド開催となります

参加費：会員無料 非会員 1,000円（事務局に参加お申し込みください）

17：15～懇親会（青砥駅周辺予定）

事務局：info@jmsme.org

研修会（招待講演：13：00～14：40）

米田直之先生（音楽家・くるくるレーベル主宰）、カエル大先生（VTuber・ゲスト出演）

講演タイトル：カエル大先生の音楽&Scratch 寺子屋 ワークショップ

～かんたんな楽器をプログラミングで作ってみよう～

参加者の皆さんと一緒にScratchを使ってプログラミングをやってみたいと思います。題材が「楽器」ですので、自分たちの知っているものを実際に作ってみることで、子どもたちと同じ目線になれば良いなと考えています。

米田直之（ヨネダナオユキ）先生

高校在学中よりジャズ理論を学び、大学卒業後、ロンドンへ音楽留学。サウンドプロデューサー/キーボーディストとして幅広い音楽性を持ち、多岐に渡るアーティストと一緒に楽曲やステージを作り上げている。映像音楽制作においては、ジャズ/ラテン/ミニマルをベーシックとしたスタイリッシュな音像が特徴的。多種多様多彩なプレイヤー陣との交流も深く、ジャンルレスな制作スタイルで活動。

カエル大先生 / Prof. KAERU

ヴァーチャルキャラクター。音楽とプログラミングをやっている。自身のScratch作品から生まれた楽曲をまとめたシングルEP「Cursor Panic」を各種サブスクでデジタルリリース。キッズコードクラブの放課後プログラミングクラブに音楽&アート企画で参加。Twitter、YouTubeで情報発信を続けている。

口頭発表・レクチャー

15：00 「ドイツ歌曲の邦訳に関する研究」一教科書に取り上げられる教材を中心に一

飯泉琴都（武蔵野音楽大学の研修員・二期会オペラ研修所の本科研修生）

15：30 「大学音楽室のメディア環境とICTの活用」

小林田鶴子（神戸女子大学）

16：00 【レクチャー】楽しい表現活動（2）

飯泉祐美子（帝京科学大学）

「夏」という言葉から連想するもののひとつに「海」が挙げられる。

「海」といえば楽しいスポットとして、友人、家族などと夏のレジャーで訪れる場所のひとつ。

波に乗って遊んだり、ビーチで遊んだり・・・、時にはわざわざ「海」じゃなくてもと思うような遊びをしたり・・・。

今や「海」を訪れる人々の目的が、「海やビーチを利用して、楽しく過ごす」となっている。

うみはひろいな おおきいな つきがのぼるし ひがしむむ
うみはおおなみ あおいなみ ゆれてどこまで つづくやら
うみにおふねを うかばせ(し)て いってみたいな よそのくに

この曲は、林 柳波 作詞 井上 武士 作曲の「うみ」である。当時、戦時下であった昭和16年に国民学校「芸能科音楽」の教科書掲載教材楽曲として誕生し、今日では小学校「音楽」の共通教材として教科書に掲載され、世代を問わず広く知られ、歌い継がれている曲である。この曲の誕生には少し複雑な事情がある。

昭和16年太平洋戦争が勃発すると教科書は国定に統制され、軍国教育を徹底させる目的で、平和、自然などを歌う歌詞は好まれず、尊王、国家礼讃等の歌詞に重きを置くようになり、その意に沿った教材が必要となった。この曲はそのための新作のひとつだったのである。

当初は、海国日本の軍国教育を徹底させる教材としてこの曲の制作の企画がされた。しかし、実際には小学校1年生用の教材ということで、歌詞に軍艦や水兵など、軍事色を見せる歌詞を含めることはなかった。もし高学年の教材であったらと考えると、今とは異なる軍国教育的な歌詞だったかもしれず、想像することさえできない。当時の1年生の教材であったからこそ、この穏やかな夢を馳せるような歌詞が許されたのであろう。

そのおかげで、当時の軍国教育の教材として誕生した新作の殆どが過去のものとなった現在でも、歌い継ぐことができたのである。

そう考えると、この曲を何としてでも後世に歌い継ぎたいという思いを持つ。

改めて誕生当初の歌詞の意味を含めて考察すると

1番は、海の大きさ、無限の広さへの驚き、そして大自然の営みを感じとることが出来る。戦時中「ひがしむむ」の歌詞が検閲で危うかったとの説もある。

2番も、無限に続く青い波を描いている。戦時中、人々はどのような想いで海を眺めたのだろうか。複雑な心境が想像できる。

3番は、海を越えてよその国へのあこがれを歌っている。外国に夢と希望を感じていたのかもしれない。「いってみたいなよそのくに」の歌詞も検閲で危うかったとの説がある。

さて、作詞者の林 柳波と、作曲者の井上 武士は、群馬県の生まれである。

「海」のないところで育ったからこそ「海」への想いが募り、この「うみ」誕生となったのでしょうか。

是非一度、「海」に想い馳せてこの歌詞をかみしめながら眺めてみたいですね。



帝京科学大学教育人間科学部教授 飯泉祐美子

COLUMN ～色聴を説く～ 多くの音楽家が持っている、音を色に感じる「色聴」。それは世にはあまりまだ知られていないヒトの能力の内の「共感覚」といわれるものである。各々の調性に違った色彩を感じる調性格について論じるのも、このことから派生している。

関西学院大学工学部の長田典子教授によると、共感覚（シネスジーア synesthesia）とは、「一つの感覚の刺激によって別の知覚が引き起こされる現象である」という。文字や数字に色が付いて見える、何かを味わうと手に形を感じるなど、一言で言うと「感覚と感覚の混線」が共感覚である。語源はギリシャ語の「一緒に・統合」(syn)と「感覚」(aisthesis)とを合わせたとされる。

共感覚には多様なタイプがある。文字や数字に色を感じる「色字(しきじ)」、音を聴くと色が見える「色聴(しきちょう)」などがよく知られているが、他にも色から音、味から形、においから色、痛みから色、曜日から色、数字列やカレンダーから空間配置を感じるものなど、これまでに150種類以上の共感覚が確認されている。

かつては、共感覚は非科学的なものと考えられてきた。しかしここ30年の間に脳活動を可視化する技術が飛躍的に進んだため、共感覚者の脳の中で起こっていることを確かめられるようになった。例えば、音楽の各調性に固有の色を感じる色聴共感覚者が、目をつぶって音楽を聴いているときの脳活動を計ると、聴覚野の活動だけでなく、本来活動することのない視覚野の色知覚野の活動が捉えられる。色知覚野の活動は、共感覚者が確かに色を感じていることを客観的に示す証拠となる。現在の解釈では、共感覚者は関連のないアイデアどうしを結びつけるのに秀でていて、それが芸術性や記憶力を生み出したと考えられている。いずれにせよ共感覚のしくみを解き明かすことは、人間の普遍的な性質の理解にも役立つと期待されている。

(武蔵野音楽大学 森永美穂子)

《新入会員メッセージ》 皆さまはじめまして。高木麻衣子と申します。林麻由美先生のご紹介で入会致しました。現在、東京福祉大学短期大学部所属ですが、短大・学部問わず主に1、2年生の基礎的な音楽科目を担当しております。短期間でピアノ演奏技術をどのようにスキルアップさせるか、今後保育・教育に携わる学生たちが、未来の子どもたちにより良い音楽を届けるためにはどのようにサポートしていけば良いのか、日々試行錯誤の毎日です。昨今の研究テーマとしては、「アウトリーチコンサートについて」や「ピアノ演奏の筋電計を使った実験」に興味を持って取り組んでいます。アウトリーチに関しては、自身が演奏活動を続けていることもあり、また前職が音大進学専門予備校に勤めていたことで、せっかく音大を出て、才能に溢れた方たちが沢山いらっしゃるのに、その技術をもっともっと披露できる場（社会や仕組み）を作りたい！との思いがあり、研究しています。

また、筋電計を使った実験に関しては、「上手な演奏家は、同じ楽器で弾いているのになんて素晴らしい音色が出るのだろう」「口や模倣で教えてもらっても同じような音色が出せないのはなぜなのだろう」という自身の疑問から、素晴らしい演奏家が演奏している時の腕や指の弛緩を科学的に可視化することで、その糸口が見つからないものかと思ったからです。これは、科研費もいただいて、少しずつですが明らかになってきたこともあります。

未熟者ではありますが、今後もこのような研究活動を継続的に行えれば良いなと思っています。本学会で皆様と勉強させていただき、お力添えをいただきながら成長出来たら嬉しく思います。どうぞよろしくお願い致します。

《新入会員メッセージ》 この度会員になりました。飯泉琴都です。私は、今春に大学院を修了し、現在は武蔵野音楽大学の研修員および、二期会オペラ研修所の本科研修生として、音楽の研究に日々励んでおります。大学院在学中は主にドイツ歌曲を研究し、修了演奏においても、ドイツ歌曲を演奏しました。歌と伴奏の関係性や、作曲家が曲に込めた思い、詩と音楽の融合など、ドイツ歌曲にしかない魅力を研究してきました。大学院修了後は、ドイツ語を利用して自主的に何かできる事はないかと考え、今年の5月より、SNS上でドイツ語歌唱によるディズニースングを演奏する活動を行っております。この活動を通して、引き続き音楽とドイツ語の結びつきや、ドイツ語歌唱の響きの美しさについて研究し続けたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。演奏動画はこちらのリンクからご覧頂けます。 → <https://instagram.com/kottannoprojekt?igshid=MzNlNGNkZWQ4Mg==>

会員掲示板

飯泉琴都さんが第1部に出演されます。

THE 50th

ドイツ歌曲演奏会

Der große Tag des Liedes

リート祭の祝祭

～Die Taubenpost 第50回記念公演～

第1部 リート史パノラマ
第2部 珠玉のリート
第3部 20/21世紀のリートと偉大な詩人
グランドフィナーレ

2023. 8.26 (土)

13時開演 (12:15開場) 紀尾井ホール

第1部 13時 第2部 16時 第3部 18時30分

全席自由 一般 4,000円 学生 3,000円 (当日券は各500円増) 送料込

第1部 第2部 第3部 通し券・再入場可

主催：Die Taubenpost 第50回記念公演実行委員会
マネージメント：ヤマベ・ミュージック・アソシエイツ

史上初、200年の時を越える歌曲の旅路。

第1部 《リート史パノラマ》13時開演 (15時30分終了予定)

第2部 《珠玉のリート》16時開演 (18時30分終了予定)

第3部 《20/21世紀のリートと偉大な詩人》18時30分開演

グランドフィナーレ

企画・構成・セブ / 子安ゆかり

友情出演 ケルン留学時代からリート愛を育んだ置友たち

2023 8/20 (日)

AZURE SAX

～夏の演奏会～

入場無料 (予約必須)

開場 13:30
開演 14:00

取手福祉会館 小ホール
茨城県取手市東1-1-5

〇交通アクセス〇

①取手駅東口より徒歩15分
②取手駅東口の大利根交通バスに乗り、(1)どの行き先でも大丈夫です。)市民会館入口にて下車した後、徒歩3分
③常磐道谷和原インター「取手方面」出口より約30分 ※駐車場もごさいます。

ご予約はこちら

お問い合わせ:s.ninomsax@gmail.com

箱崎理沙先生が出演されます。

会費納入のお願い

8月1日より2023年度となります。

2023年8月1日~2024年7月31日の年会費の納入を、来月よりよろしくお願いいたします。

《振込先》 ゆうちょ銀行 10510-91267401

他銀行よりお振込みいただく場合：
店名 058 店番 058 (普) 9126740

ニホンオンガクキョウイクメディアガッカイ

※入会・退会に際しまして、又、会費についてご質問等ございましたら事務局までご相談ください。

事務局だより

七夕の季節。童謡「たなばたさま」の歌詞は、軒端に揺れる「笹の葉音」と夜空の「星々の瞬き」が呼応しているかのような情景描写が魅力的です。続く「金銀砂子」の歌詞は、天の川の輝きを川砂に例えたものと解釈されますが、作詞者の権藤花代が山梨県出身であることを考えると釜無川・富士川水系の砂金かも？などと想像を逞しくしてしまうのは行き過ぎでしょうか(笑)。「地の音」から「天の瞬き」想い「水辺の砂」にまで連想が及ぶ歌詞に「聴く」ことの奥深さと創造性が凝縮されているかのようなのです。想像力と共感を持って耳を傾けることで、音は、様々なことを伝えてくれるメディアになるのですね。音楽と教育、メディアに関わる私たちもあらためて、自然や社会、過去や未来、子どもたちに「耳を澄ます」ことの意味を考えてみたいものです。学会事務局スタッフも会員の皆様の声に一層耳を傾けて参ります。(兼古)